

2024年度 自己評価・学校関係者評価報告書

自令和6年4月1日 至令和7年3月31日

学) そだちの園 さかのうえようちえん

1. 本園の教育目標

- 1) 健全な心身の発達を促す
- 2) 自立した生活習慣を身につける
- 3) 感謝の心を養う
- 4) 思いやりのある人に
- 5) 最後まで頑張る

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 1) 園児の主体的な活動として農園体験を見直し、充実する
- 2) 園児が考え、工夫できるように身体表現を中心とした劇あそびを充実する
- 3) 外国人講師と連携し、遊びを通して英語と親しめる英語教育を展開する

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	園児の主体的な活動として農園体験を見直し、充実する	A	活動の導入期から園児の発言や反応を踏まえながら計画し、実行できた
2	園児が考え、工夫できるように身体表現を中心とした劇あそびを充実する	A	外部での研修に参加し、園内研修や振り返りの時間を設けることにより、園児中心の活動を目指して工夫を重ねることができた。
3	外国人講師と連携し、遊びを通して英語と親しめる英語教育を展開する	A	外国人講師と協力して、カリキュラムを立てる時間を設けたため、園児の反応を踏まえながら計画の見直しを重ねることができた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	当園が重視している園児の主体性を、農園体験、身体表現、英語教育という、特に当園が重視している分野において、さらに充実させることができた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	3分野の充実	今年度に充実を目指した3分野について、次年度に向けた活動の参考となるように記録を残す。また、内容の更なる充実を図る。
2	組織体制	園内の組織を明確にし、役割分担や意思決定の体系を明確にする。
3	英語教育	より求められる英語教育を、一方通行ではなく、園児の主体的な活動とするために、外国人講師との連携を深め、カリキュラムの充実を図る。

6.学校関係者の評価

幼稚園が注力する分野での、更なる取り組みが見られた。園児の主体性がより重視されるべきであり、また英語の分野では特に、教育的な成果も重要となる。この両立に向けて、園内外の資源を統合して、更なる充実を目指して欲しい。

評議員 高橋 徹

農園体験の充実によって、身近な食への関心がさらに高まった。身体表現を中心とした発表会は、園児の教育としての意味合いに加え、保護者にその成長を感じてもらうにも良い機会であった。今後も地域資源や、園内の資源を最大限に活かしてもらいたい。

卒園児保護者 佐藤 暢子